

(仮称)外国人就労適性試験 実施骨子

JAEFN 外国人雇用協議会

2016.10.13

日本の言語・文化・ビジネス習慣に通じた質の高い外国人が日本のビジネス社会で活躍できる環境を整えるため、業務の遂行に必要な能力要件を検定試験を通じて客観的に測定・評価し、一定レベル以上のスキルを有する高度人材候補となる外国人を認定する。

大学、短期大学、高等
専門学校等の留学生

外国人
研修生

ワーキング・ホリデー
在留資格者

永住者、定住者、
及び、その配偶者・子



業務遂行能力と
適格性を審査

一般社団法人 外国人雇用協議会 主催 (仮称) JAEFNテスト

測定

評価

認定



人材不足が顕著
な業界の活性化

外国人従業員の
受け入れ促進

人口減少が進む
地域の活性化

小売・コンビニ

小売・アパレル

飲食

サービス・ホテル

サービス・受付事務

介護・福祉

農業

ファッション

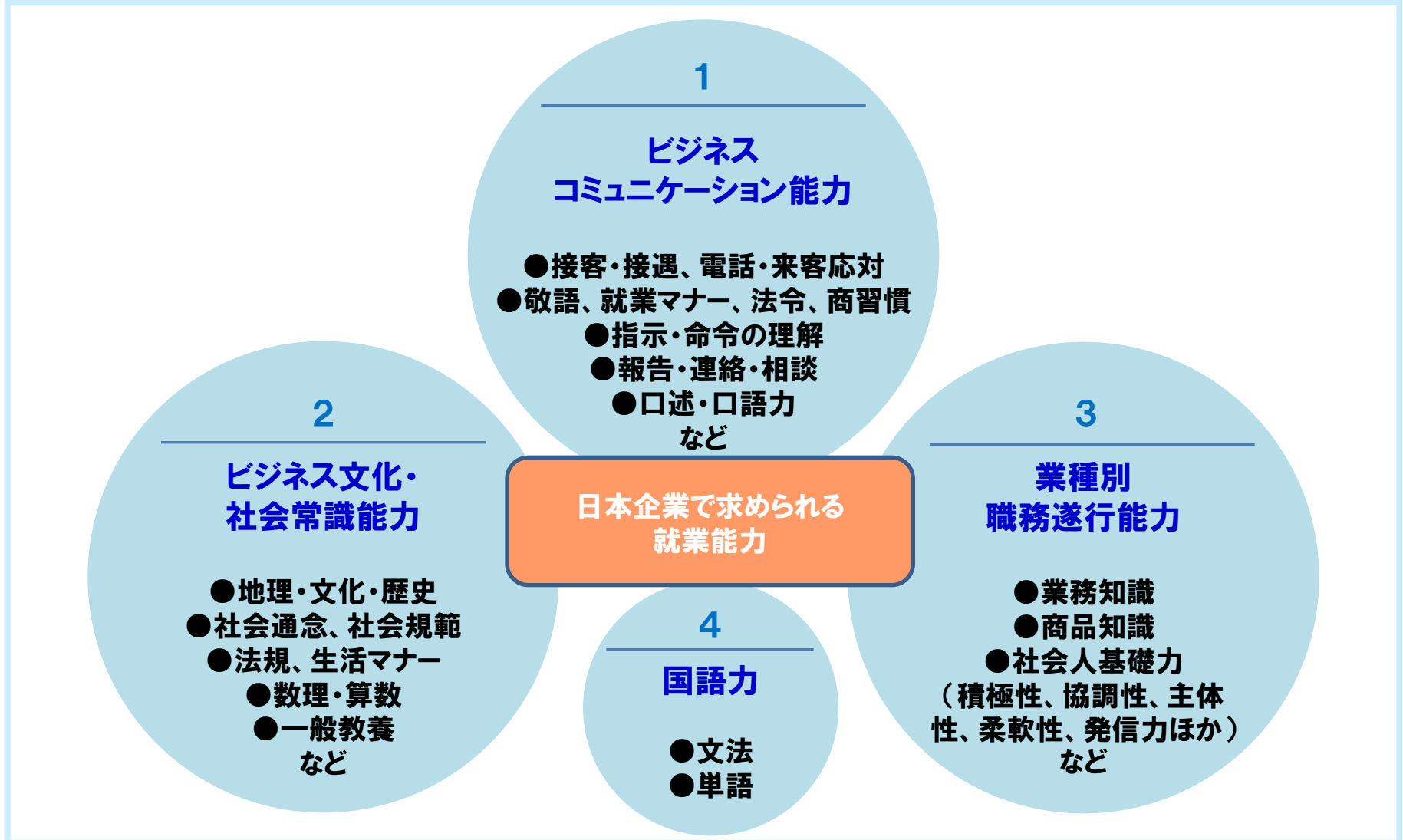
メイク・ヘアデザイン

サブカルチャー

地方自治体

市民団体・NPO

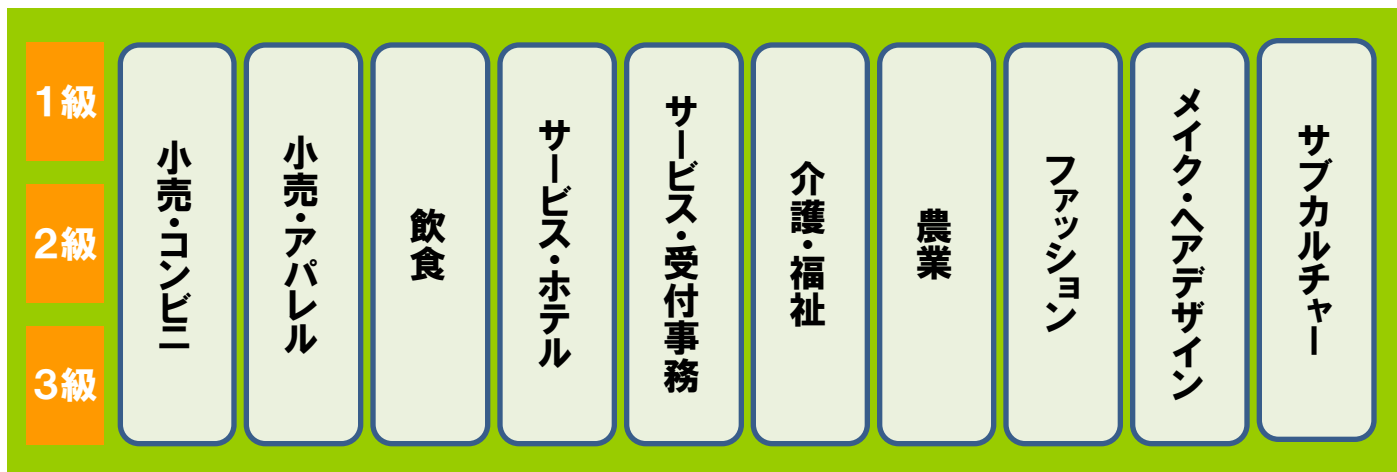
言語・文化・ビジネス習慣の相互尊重を前提としながら、「就業者としての外国人」が日本語により意思疎通を図り、仕事を進めるうえで必要となる能力要件を、「ビジネスコミュニケーション力」、「ビジネス文化・社会常識力」、「業種別職務遂行力」、「国語力」の4テーマに分類し、測定・評価・認定を行う。



ビジネスコミュニケーション能力やビジネス文化・社会常識を測定評価する「共通基礎試験」と、産業分類ごとに求められる個別の業務スキルを測定評価する「業種別実務能力試験」を(仮称)JAEFNテストの基軸とし、合わせて、日本語の国語能力を測る「日本語能力試験(JLPT)」の保有レベルを参考指標として活用する。

一般社団法人 外国人雇用協議会 (主催、認定)

業種別
職務遂行
能力試験



国語力
試験

N1

N2

N3

国際交流
基金・
日本国際
教育支援
協会主催
日本語
能力試験
(JLPT)

共通
基礎試験

第一科目:ビジネスコミュニケーション

- 日本特有のコミュニケーション,敬語,効果的な伝え方,話の組み立て方,指示の受け方
- 来客対応,電話対応,接客・接遇
- 報告・連絡・相談,会議,クレーム対応
- 勤労意識,就業マナー,会話の重要性

サーティファイ コミュニケーション能力認定委員会主催
実践日本語コミュニケーション検定(PJC)

第二科目:ビジネス文化・社会常識

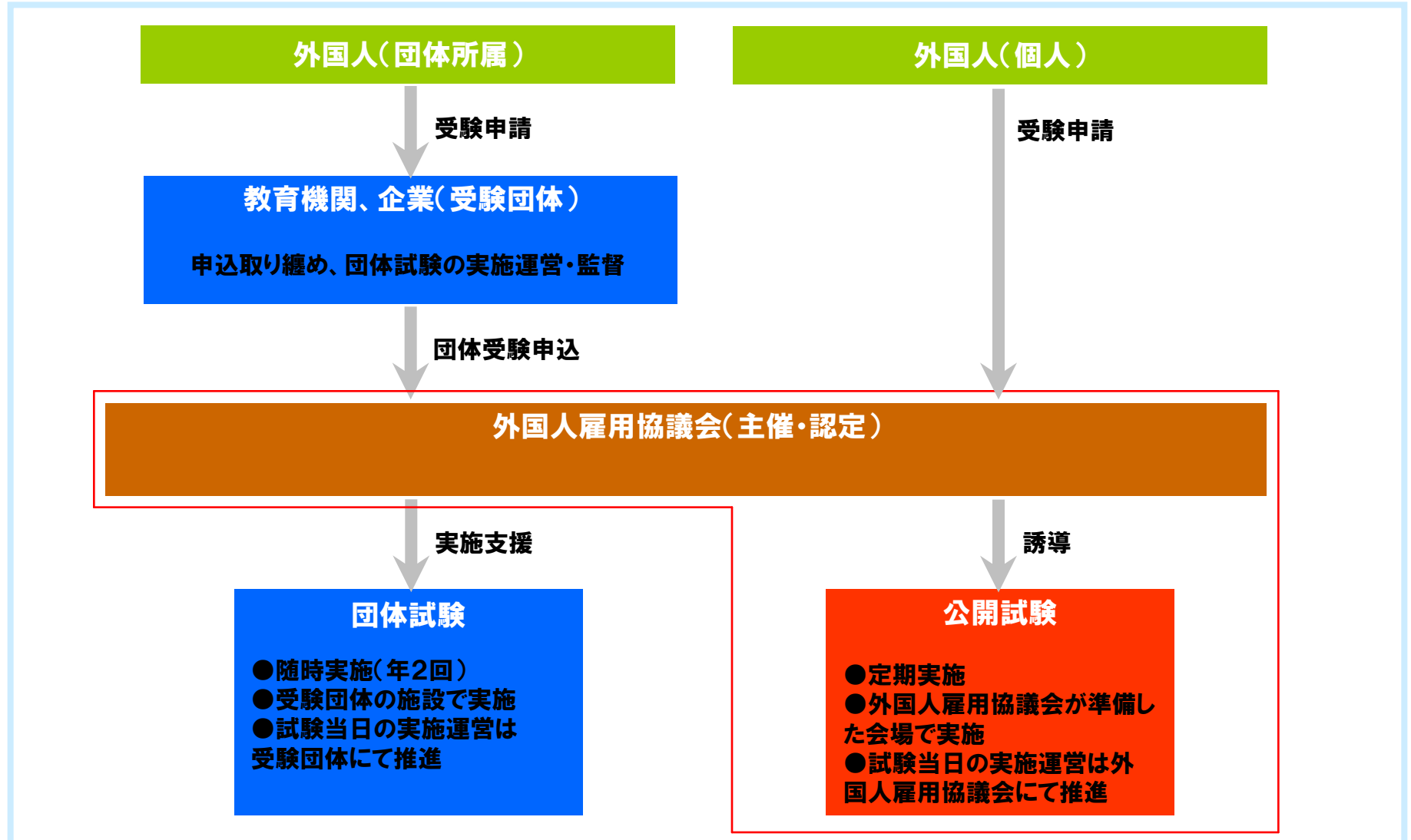
- 地理(都道府県名,県庁所在地等)
- 文化(年中行事,元号,国民の祝日,食材)
- 歴史(産業史,近現代史)
- 法規(住居,道路交通,売買,雇用等)
- 数理(加減乗除,金種計算等)
- 社会通念,社会規範,生活マナー

外国人留学生や研修生、永住者や定住者が個人単位で受験する「公開試験」と、大学・短期大学・専門学校・日本語学校等の教育機関や企業単位で受験する「団体試験」の2種類の実施方法を準備する。

	公開試験	ペーパー形式	団体試験	ペーパー形式	Web形式
受験者	個人外国人		受験団体に所属している外国人 (学生、受講生、社員、アルバイト従業員など)		
申込者	受験者本人		受験団体責任者 (人事・総務担当者、教師・講師など)		
試験会場	外国人雇用協議会が指定する試験会場 (理事社会議室、貸会議室/貸教室など)		受験団体が自ら保有・借用している施設 (教室、会議室など)		
実施運営 (監督含む)	外国人雇用協議会		受験団体責任者 (人事・総務担当者、教師・講師など)		
試験日時	外国人雇用協議会が定める日時		受験団体が任意に定める日時 ※但し、随時実施を行う場合は、完全随時or期間内随時の判断、および、提供問題の内容とパターン数について検討が必要		

ペーパー形式	試験監督官が試験問題(冊子)と解答用紙(マークシート)を配布して受験。試験終了後、試験監督官が回収。
Web形式	事前に発行されたID/PWにてクローズSiteにログインして受験。受験者人数分のPCとイヤホンが必要(聴解問題解法のため)。※在宅受験や個別社内受験は、本人認証(替え玉受験)や不正行為(カンニング)に対する抑制手段がないため未対応。

大学・短期大学・専門学校・日本語学校等の教育機関や企業に所属する外国人は、所属団体経由で受験。特定の団体に所属していない外国人は、個人単位で受験。属性に応じた2通りの受験経路を準備する。



「共通基礎試験」は2科目構成とし、受験者の「ビジネスコミュニケーション」能力と「ビジネス文化・社会常識」能力の両面から、日本企業において業務を遂行する際のベースとなる基礎スキルを測定評価する。

	第一科目:ビジネスコミュニケーション	第二科目:ビジネス文化・社会常識
測定内容	職場における上司や同僚との日本語会話力、接客能力、ビジネスマナー等に関する理解度	日本のビジネスの背景にある文化や習慣、考え方に関する理解度と、社会常識・一般教養の保有度
評価方法	レベル評価 得点に応じてA+からE-までの10段階で評価	素点評価 正解した設問配点の合計得点で評価
認定基準	※要検討(理事会にて基準を議論)	※要検討(標準問題にて理事会にて基準設定)
回答形式	多肢選択式	多肢選択式
出題数	50問	30問
試験時間	80分	30分
出題形式	文章問題(筆記18問) 聴解問題(リスニング32問)	文章問題(筆記30問)
出題項目 (出題数)	<ul style="list-style-type: none"> ・就労意識、職場のマナー、コミュニケーションの重要性(筆記3問) ・挨拶、敬語、伝達、話の組み立て、指示の受け方、相槌(筆記10問) ・報告/連絡/相談、仕事の進め方、来客・電話対応、アポイント、名刺交換(筆記5問) ・来客対応、電話対応、訪問、接客・接遇、クレーム対応、会議、面接(リスニング32問) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理、文化、歴史(筆記10問) ・社会通念、社会規範(筆記5問) ・法規、生活マナー(筆記5問) ・数理・算数(筆記5問) ・一般教養、時事(筆記5問) <p>※但し、出題科目と項目の詳細、出題数の検討が必要→歴史は産業史に限定し、読解問題の素材で扱い、問題の正当性の議論を避ける</p>